

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	大阪府
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	泉北郡忠岡町立東忠岡小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	養護学級	計	教員数
学級数	4	3	3	3	3	3	2	21	28
児童数	132	105	117	96	122	113	9	694	

研究の概要

1. 研究主題

一人ひとりに、基礎・基本を大切にされた確かな学力の定着を図る。

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・全学年・算数
教科の中でも学年が進むにつれて理解力の幅が大きくなるため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ</p> <p>算数科における授業の形態や効果的な指導法の工夫改善</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>個に応じたきめ細かな指導の工夫（TT・少人数指導） 学習活動の工夫（自力解決学習） 学んだことを定着させる工夫（繰り返し学習）について研究、実践することで、児童一人ひとりが学ぶ喜びと楽しさを感じ、確かな学力が身に付くであろうと考える。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習教材の工夫と開発 ・ 授業の形態及び実施上の工夫（TTと少人数授業の活用） ・ 学習指導法の工夫改善（わかる授業、自力解決学習の実践） ・ 算数科観点別診断テストの実施。（4・5・6学年 年度末）
--------	--

平成 16 年 度	<p>テーマ</p> <p>一人ひとりの学力に応じた指導法の工夫改善 研究の見通し</p> <p>個に応じたきめ細かな指導の工夫（TT・少人数指導） 学習活動の工夫（自力解決学習、算数的活動、評価方法） 学んだことを定着させる工夫（繰り返し学習）について研究、実践することで、児童一人ひとりが学ぶ喜びと楽しさを感じ、確かな学力が身に付くであろうと考える。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習教材の工夫と開発 ・ 授業の形態及び実施上の工夫（TTと少人数授業） ・ 成果を確かめるための評価方法の工夫 ・ 学習指導法の工夫改善（わかる授業、自力解決学習） ・ カリキュラムの検討 ・ 観点別診断テストの分析と個に応じた指導の研究
--------------------	---

(3) 研究推進体制

研修部 算数研修会(各学年1～2名) 各学年で検討 (算数研修会) 全体会

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

基礎・基本の定着のために、内容の系統性を把握した振り返り学習・繰り返し学習を活用。具体的には、単元の導入時における既習事項の振り返り学習。学年計画表にそった朝の学習や家庭学習での繰り返し学習等を行った。また、確かな学力として、見える学力、見えない学力をバランスよく捉え、確かな学力の定着のために、授業形態の工夫改善、指導法の工夫改善に取り組んだ。高学年では、授業形態の工夫改善として、学習内容によって、ティームティーチングや少人数指導を効果的に取り入れ、2学期から習熟度別学習、課題別学習、課題選択学習を行った。児童からも、「質問しやすいので、わかりやすい。」「発表がしやすい。」等、肯定的な意見が多かった。また、指導法の工夫改善として、自力解決学習を学習内容によって行った。特に、児童のコミュニケーション力を育てる方法の一つとして、発表ポ

ードを活用し、児童がノートにまとめた自分の考えを発表ボードに書いて、みんなの前に出て説明する学習を繰り返し行った。児童のノートから、自分の考えを吹き出しに書いたり、数直線図等を使って、自分の考えをまとめることができるようになった。また、少人数学習の中で、説明することで自信を持ち、クラス全体学習でも少しずつ説明ができるようになってきた。問題解決的な学習を少人数学習で行うことにより、児童の主体的な学習(積極的な発表など)意欲が高まった。習熟度別学習等、コース別学習において、児童がコースを選択するにあたり、繰り返し行うことで、児童が自分にあったコースを選択できるようになった。

2. 今後の課題

研究授業を通して、学校全体で指導法の工夫改善について共通理解を深めていく。

学習教材の工夫と開発(補充的な学習・発展的な学習教材)

- ・各学年・各単元における基礎・基本の定着を図る学習教材の研究・整備。
- ・算数コンピュータソフトの活用、パターンプロックの活用の仕方について検討。

指導と評価の一体化

基本的な評価の観点として、「算数への関心・意欲・態度」「数学的な考え方」「数量や図形についての表現・処理」「数量や図形についての知識・理解」として、実践していく。

算数科観点別診断テストの分析

学力等把握のための学校としての取組

5年 1学期末に、算数についてのアンケートの実施。

- ・少人数指導について
- ・自力解決学習について

コース別学習の際、コース分けアンケートの実施。

授業の終わりに、授業の振り返りや感想を書くよう指導。

児童のノートにおける吹き出しや考え、まとめを定期的に見る。

算数科観点別診断テストの実施。(4・5・6学年)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

来年度、研究発表会を11月頃行う予定。

本年度、校内研修として、講師を招いて講話を開いたり、研究授業を行い、同じ町の小・中学校に参加を呼びかけた。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下	7～12学級		
	13～18学級	19～24学級		
	25学級以上			
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	